

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370900441		
法人名	社会福祉法人 柏寿会		
事業所名	福光園グループホームやすらぎの家		
所在地	岩手県一関市真柴爪木立43-96		
自己評価作成日	平成24年7月24日	評価結果市町村受理日	平成24年10月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kan=true&JigyosyoCd=0370900441-00&PrefCd=03&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(公財)いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成24年9月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様お一人お一人が満足した日常生活を過ごすことが出来るよう支援をしております。そのために共有空間である中、外でも過せる環境を利用者様の身体の変化に合わせて創っています。
 日常生活の場として外へと、催事、外食、故郷の行事、畑仕事、近隣との付き合い、居酒屋、買い物など社会との係わりを閉ざさないように心がけています。
 地域密着型を意識した取り組みとして、地域と共に暮らすため区費を納め行事には出来るだけ参加をして、認知症になられても家族も本人も安心して生活が送れる事を伝えられるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

旧一関市南側の自然環境に恵まれた山間地帯に建てられたグループホームである。JR一関駅からバスで15分、一関インターから20分ほどの場所である。東日本大震災の際には地域の方々から協力をいただくなど、良好な関係が築かれている。利用者の表情は穏やかで、ホーム全体が明るい雰囲気にも包まれている。折りたたみ式の洗濯物干しバーの工夫、立ち上がりときの補助器具、体重測定補助器(車椅子ごと計測可能)、在位姿勢のまま長時間疲れな椅子などが利用者に合わせて職員によって作られている他、視力障害者への支援や、弱っているところに着目しての支援等、利用者一人ひとりに合わせた支援に努めている。運営推進会議には利用者と家族が全員参加されて互いに生の声を聴き、ケアのレベルアップに繋げるとともに、ご家族とのコミュニケーションに努めて、支援に活かされている。また、管理者と職員との人間関係が上手く機能しており、利用者に寄り添って自立に向けた支援に努めている等、思いやりのあるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	福光園の理念を基にして、地域密着型サービスをふまえた理念を作り、管理者と職員は共有し日々のOJTまたは、職員会議などで実践につなげています。職員研修も行っています。	事業所の理念は、法人の理念を受けて職員全体で話し合って作り、管理者と職員が日々のOJTや職員会議で掘り下げて話し合い、具体的なケアについて意見の統一を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区民・地域の方々と共に暮らせるよう、職員から地域に入り交流を深め、利用者様も交流が出来るように努めています。買い物や地域催事に参加をしています。	地域の運動会や芸能まつり、敬老会など地域の行事に積極的に参加している。日常的に買い物や散歩に出かけ、地域の人たちと挨拶を交わしている。自治会に加入しており、役員になるなど交流が図られている他、地域の芸能祭りや町民運動会・敬老会等に積極的に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の代表者会議に参加して、事業所の事業計画や実績などを報告しています。立地場所が国道に接しており、生活様子などは自然な形で発しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、利用者、介護保険課、区長、民生委員、老人クラブ、警察、消防署の方々との意見交換を1回/2ヶ月開催し、事業内容の報告や今後のあり方などについて、意見を頂いています。	2ヶ月ごとに開催されている。利用者やご家族、地域の区長、民生委員、老人クラブ、介護保険課、警察・消防署職員で構成されている。利用者の生活状況や事業内容について説明し、ご意見をいただくようにしている。	警察署や消防署の職員も委員として協力をいただいているのは大変良いことであるので、専門的な立場から事業所の運営についてご協力をいただき、サービスの向上に活かされることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会や両磐ブロックグループホームの定例会などに出席をいただき、全体のサービスなどについて意見を頂いています。制度上の考え方についても介護保険課に出向き関係構築に取り込んでいます。	運営推進会議や西磐井郡・東磐井郡ブロックのグループホームの会議に出席し、情報交換や運営について意見をいただいている。介護保険課からは、ケアプランの作成について、福祉課からは、代行申請や加算申請、生保などについて協力をいただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	鍵は掛けていません。身体拘束の弊害は、職員は身をもって分かっているため、これからも拘束をしないケアと合同委員会で取り組んでいきます。	法人内のグループホームが一緒になって毎月会議を開催し、身体拘束をしないケアについて情報を出し合いながら、拘束をしないケアに取り組んでいる。マニュアルも作られている。玄関を含めて4箇所にセンサーは設置しているが、施錠はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が利用者様の事を一番に考えております。月一回の合同委員会での報告を職員会議で行っています。職員間のコミュニケーションも虐待への大きなファクターであり大切にしています。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 福光園グループホームやすらぎの家

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去に家族様と話し会いをもったり、福祉課の方と制度について学ぶ機会を持つことができましたが、最近では必要性が少なくなっており、組織的に学ぶ機会が減っています。資料を活用して学ぶようにしていきます。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・改定時は契約書・重要事項説明書、文書などで家族様に説明して納得を頂いています。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で利用者や家族様から意見・要望が話せる進め方に努めています。利用者様会議や面会時の会話から率直な意見をいただき反映に努めています。	個々の利用者の担当者が決まっており、日常生活の中で見たり聞いたりしたことを、日常のケアやプランの見直しに活かしている。ご家族には、毎月お便りを配布している。面会時にお聞きしたことは、利用者の支援やホームの運営に反映させている。また、不定期だが利用者会議を行い、率直に話せる機会を設けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議にも園長・総括が同席をして意見が聞けるようにしています。年2回個別面談があり、その中で意見・提案を聞く機会を設けています。	6月と11月に職員と個別面談を行っている。毎月開いている職員会議には上司も参加し、職員の意見を聞いてもらうようにしている。利用者がよく眠れないのでベットを入れてもらったり、車椅子のまま体重を図る機材、清拭のタオルをあたためる機材の購入などが職員から出され、実現されている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回評価があり、評価結果を本人にフィードバックして労使共に向上心を持って整備に努めています。介護員のコミュニケーションは特に大切に次で繋がることを意識しています。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部・内部研修に希望や指示で受けられるようにしています。資格取得への時間配慮や資格取得後の対応もおこなっています。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県・両磐グループホーム定例会に参加して意見交換を行い質の向上に努めています。同時に交流会に参加してネットワーク作りに努めています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネ、管理者が自宅に伺い、本人・家族様から話を聴く時に業務中心にならないように心がけ、本人が安心して過ごせる為にイメージしながら、入居が不安にならないように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時期から信頼していただけるように、不安に思っている事や生活の様子が少しでも見えるように接しています。導入時も困っていることが遠慮しないで話せるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームの見学や入居時に生活の様子をお話をしながら、心理面・環境面から、新生活にあたり第一の支援を見極める支援をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活は共に支えあうものと考えております。教えたり、教えられたりして共に必要である関係を介護員は一瞬でも心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活面での健康・通院・理容・外出・環境支援について、率直に話しあい共に支えあい、家族様もお世話をしている気持ちなれよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	大変難しい事項ですが、本人が買い物をしてきたスーパーや病院、実家、住んでいた家などに行き、顔なじみの方と過せる時間が創れるようにしています。	理・美容には、ご家族が同行されている。買い物に行く時馴染みの人たちと会える機会が多いので、二日に一度は一緒に出掛けて行くように努めている。利用者の誕生会には、馴染みの人を招待して踊ってもらっている。郷里にもドライブしている。ホーム内に閉じこもらないで外の空気を吸って頂き、日々の充実感・満足感を十分に味わって頂くように、管理者の方針に添って支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者同士の席わりや利用者が互いに部屋に行き過せるようにしています。いつも利用者様間で物事が完結出来るように見守りをしています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後も手紙を書いたり、次の入居に対する情報提供を電話や入院先で支援を行っています。スーパで会った時はその当時の話題が出ます。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	面会時の日常会話から生活歴を教えていただき、出来るものから支援を行っております。利用者様が満足いく支援に努めています。	日常生活での会話の中や、ご家族と面会されたときにじっくりと話し合い、その記録を職員間で共有に努めている。聞いたことは、項目を起こして分類し、見やすいように整理されている。思いや意向を表せない方には言葉や表情などから真意を推し測ったり、家族・関係者から情報を得るようにしている。遠慮して意向を表さない方もいるが、職員のアプローチでさりげなく引き出し対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、家族様から得た生活歴を把握してケアプランに生かすよう努めています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランの評価や職員会議などで現状の把握を行い支援に努めています。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	評価から見えた支援や職員会議での新たな支援について本人ご家族や関係者からの意見を反映してケアプランに行かせるように努めています。	利用者ごとに担当者を決め、状況の把握に努めている。これらを基にカンファレンスを行い、プランが作成されている。6ヶ月に1回の見直しが基本であるが、介護度が変わったときや状態の変化があった場合は、随時見直しを行うこととしている。本人やご家族から聞いたことを大事に作成し、作成後は、家族に説明している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌に記録として残し、必要に応じて申し送り職員間での情報を共有できるようにしています。その情報をケアプランに生かすよう努めています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存サービスで終わらないように、職員が様々なニーズに近づけられるよう、話合いやOJTに取り組んでいます。			

岩手県 認知症対応型共同生活介護 福光園グループホームやすらぎの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	スーパー、理容、民生委員、民区、ボランティアなどの地域資源を活用し、楽しいと感じる生活が送れるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の掛かりつけ医を主としています。緊急の時は協力医（総合病院、歯科、認知症）の受診が出来るよう支援しています。	利用開始前から利用していた医療機関をそのまま利用している。通院は、ご家族対応が基本であるが、実際は2名がご家族で、あとの7名はホームで対応している。緊急時は、協力医で受診することになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態変化を見逃さないよう、バイタルは勿論歩行、表情、声、摂取量に気づき、家族様と連絡・相談をして決めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はサマリー、口頭による情報を提供し本人に対する環境が変化しないようにしています。途中の病状や、退院時期などは先生から情報を得て本人への支援を心がけています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化になった場合の話し合いを本人、家族と行い、対応に対する相談をおこなっています。終末期の方の受け入れはまだまだ難しいと思います。	入所時には、ホームではターミナルケアを行っていないことを、利用者やご家族に説明されている。重度化になった場合は、家族と医者に相談し、法人としては支援協力することをご家族に伝えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	過去の経験を生かし、初期の対処方法に訓練しています。普通救命訓練や消防士の方に指導を受けています、		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・地震における訓練は行っています。地域がら近隣も少なく応援の協力も難しいため、最小限の人員で最大の効果を得られる基本的な考えの指導を行っています。	火災や地震のマニュアルを用意されている。7月は、屋に夜間を想定した訓練を実施し、11月には、地震を想定した訓練が計画されている。地域からは、元消防団の分団長が中心になって協力をいただく体制が作られている。緊急通報装置やスプリンクラー、非常食、連絡網も良く整備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を重んじお世話が自然に見えるように心掛けています。外部・内部研修を通して「お客様の満足」を全員で取り組んでいます。	利用者を家族の一員としてとらえ、安心して暮らせることを常に念頭におきながら「お客様の満足」を理念にかかげ、プライバシーの確保に取り組んでいる。個々の職員が支援目標を掲げ、どのように取り組んできたかを半年ごとに提出させ職員会議で発表させるなど、職員の意識の向上に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来るよう、催事、畑、家族の情報、買い物等の情報を事前に伝え意思決定が出来るように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床から就寝にいたるまで、本人にのペースに合わせた生活が出来るように支援を行い、時には選択できる情報を提供しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節の変わりめに衣類の整理を本人と行い、本人が選択出来るようにしています。行事用の衣類も家族様に相談し揃えています。買い物への支援もしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様がその日に食べたい料理を尋ね、一緒に食材の買い物に出掛け、一緒に作り一緒に盛り付け。食後は一緒に片付けをしています。希望のときは外食なども行っています。	メニューは、昼食後に利用者と相談しながら決めるようにしている。食材の買い物にも利用者がいっしょに出かけている。また、調理、盛り付け、片付け等は、利用者と一緒にいき、職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事する雰囲気作りに取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同じメニューにならないよう献立表で確認し、栄養バランスも考えて提供しています。1日の水分量が分かるようにチェック表を用いています。体調も考慮し献立、大きさ、味も変えて提供しています。栄養士にカロリー計算と献立の意見も反映しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は自立・介助の利用者全員の清潔保持をしています。その後、夜間は希望の方のみ義歯を預かり洗浄剤で清潔を支援しています。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 福光園グループホームやすらぎの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄の自立を支援しています。環境上の制約でトイレの使用が不可能な方にはポータブルトイレの支援も行っています。脱オムツを念頭にトイレでの排泄を支援しています。	排泄チェック表を利用し、尿意のない利用者にも時間を見計らって誘導することにより、トイレで排泄できるよう支援している。夜間は、ポータブルトイレやリハビリパンツ、誘導など一人ひとりの力に応じて支援している。排泄チェック表には、担当職員名を書いて正確に記述することに心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	身体を動かす(掃除、買い物、笑う)事を基本に支援しています。飲食では乳製品、繊維質野菜、水分摂取。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には希望重視で行い、声掛けの時は承諾を得て入浴支援しています。安心配慮として福祉用具の設置。	職員が一時的に決めずに、利用者からその日の希望を確認して入浴されている。入浴をしない日は、清拭や足浴に変えて支援をしている。バイタルチェックは、朝と入浴の直前に行い、担当された職員名が明確にされている。同性介助で対応されている。拒否される方には、会話しながらいつの間にか入ってしまっているなど、要領を得ている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望に合わせた安眠や休息が出来るよう環境として、畳にふとん、ソファーなどを支援しています。湯たんぽ、アイスノン。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れや誤薬しないように対策を講じています。状態変化や症状の記録が必要な時は、ケースに残し、通院時の情報にしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活を行う事を理念としています。役割は勿論の事、楽しみも利用者と相談して気分転換が出来るように日々職員は話し合い支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族様も同伴で温泉に出掛けたり、実家、家族の家で逆デーをしたり、カラオケ、外食、墓参りなどおこなっています。	利用者一人ひとりの希望にあわせて、買い物やホーム周辺の散歩に行ったり、外食やカラオケ、ご家族と一緒に温泉に出かけており、気分転換と、健康維持のために短時間でも外出させるように心がけている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 福光園グループホームやすらぎの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出での買い物の支払いは自分の財布を持ち、レジで支払う事も支援しています。家族と相談して自分持ちの財布に決まったお金を持っていただいている方もおります。レシートはコピーを取りファイルしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望がある時は、基本的には支援しています。手紙やお便りの中に写真なども同封して家族とのかかわりを支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の生活空間は木目調で造られ、窓からは田園、庭園などが見られ、鳥の声、せみの声、草木の匂いがあり太陽の光も入り、季節感のある空間を提供しています。	ホーム内は、木目が見える木材が多く利用され温もりを感じる。四季の変化がいつでも眺められる窓に囲まれ、落ち着いてゆったりと暮らせる。洗濯の乾燥場や利用者の介助バー等が、利用者にあわせて職員の手で作られている。ソファ等も利用者の好みに合わせて使用できるように配置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人椅子、二人掛け椅子を要所に設置し、居場所を提供しています。食事時の場所は決まっていますが、その他の時間帯では、座る椅子は決めていません。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	希望する利用者には家から馴染みの時計、写真、テレビ、コタツなどを持ち込め出来る事伝えていきます。ベットだけではなく椅子に腰かけられる支援も行っています。	時計やご家族の写真、テレビ、炬燵、手芸作品など、思い出の品々が持ち込まれ、それぞれの利用者の居心地の良さに配慮している。ベット・畳からの立ち上がり困難な方には枕元やベット脇のポータブルトイレに手づくりの安全手すりバーを設けたり、細心の気配りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共通の空間には手摺や緩やかなスロープをつくり、場所説明の名札を設置し、ドアは引き戸、蛇口は回す方式、電気スイッチは紐でのオンオフなどで作られ認識の間違いを少なくしています。		